

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

平成28年の我が国の漁業・養殖業の生産量は436万8,234 tで、前年に比べ26万2,483 t (5.7%) 減少した。

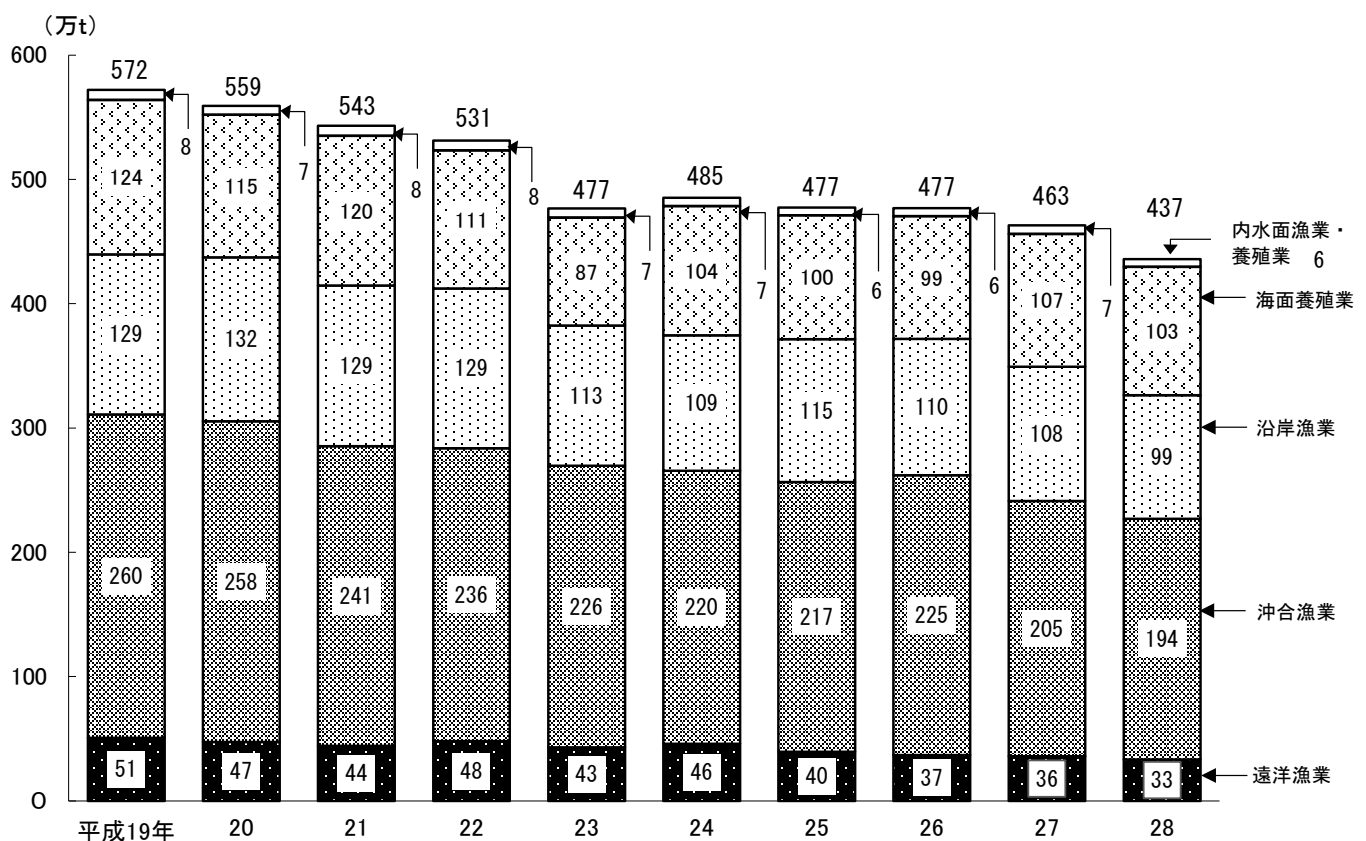
このうち、海面漁業の漁獲量は327万2,563 tで、前年に比べ21万9,883 t (6.3%) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は33万3,861 tで、前年に比べ2万4,312 t (6.8%) 減少、沖合漁業は194万4,995 tで、前年に比べ10万8,235 t (5.3%) 減少、沿岸漁業は99万3,747 tで、前年に比べ8万7,337 t (8.1%) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は103万2,537 tで、前年に比べ3万6,480 t (3.4%) 減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は6万3,135 tで、前年に比べ6,118 t (8.8%) 減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

海面漁業の漁獲量は327万2,563 tで、前年に比べ21万9,883 t (6.3%) 減少した。

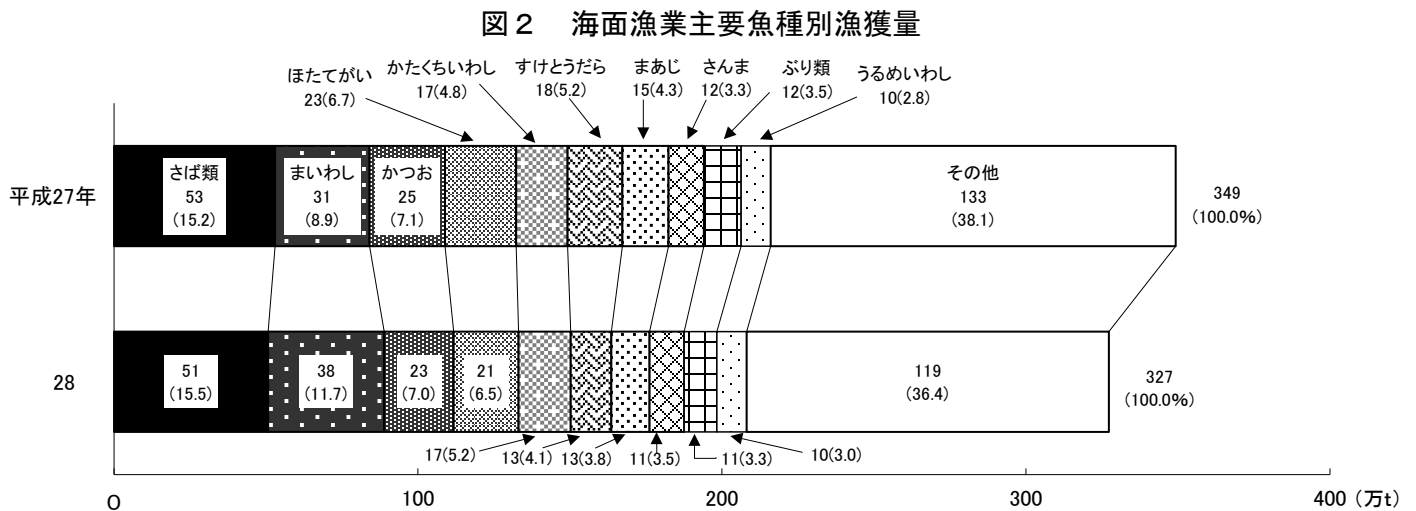
東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は8万5,169 tで、前年に比べて2万3,583 t (21.7%) 減少、宮城県の漁獲量は16万3,191 tであり、前年に比べて2,129 t (1.3%) 減少した。

また、福島県の漁獲量は4万8,112 tであり、大中型まき網1 そうまきその他のまき網等での漁獲量の増加から、前年と比べ2,666 t (5.9%) 増加した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、まいわし、むろあじ類、ます類、たこ類、にしんであり、減少した主な魚種は、するめいか、すけとうだら、さけ類、さば類、まあじであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が15.5%、まいわしが11.7%、かつおが7.0%、ほたてがいが6.5%、かたくちいわしが5.2%、すけとうだらが4.1%、まあじが3.8%、さんまが3.5%、ぶり類が3.3%、うるめいわしが3.0%となった。



(1) さば類

漁獲量は50万7,271tで、前年に比べ2万2,706 t (4.3%) 減少した。

これは、静岡県、鳥取県等で減少したためである。

(2) まいわし

漁獲量は38万2,101 tで、前年に比べ7万1,047 t (22.8%) 増加した。

これは、宮崎県、島根県等で減少したものの、茨城県、三重県等で増加したためである。

(3) かつお

漁獲量は22万7,946 tで、前年に比べ2万368 t (8.2%) 減少した。

これは、静岡県等で減少したためである。

- (4) ほたてがい
漁獲量は21万3,710 tで、前年に比べ2万175 t (8.6%) 減少した。
これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で減少したためである。
- (5) かたくちいわし
漁獲量は17万1,176で、前年に比べ2,431 t (1.4%) 増加した。
これは、愛知県、愛媛県等で増加したためである。
- (6) すけとうだら
漁獲量は13万4,236 tで、前年に比べ4万6,113 t (25.6%) 減少した。
これは、漁獲量のほとんどを占める北海道等で減少したためである。
- (7) まあじ
漁獲量は12万5,277 tで、前年に比べ2万6,429 t (17.4%) 減少した。
これは、長崎県等で減少したためである。
- (8) さんま
漁獲量は11万3,828 tで、前年に比べ2,415 t (2.1%) 減少した。
これは、富山県等で増加したものの、神奈川県等で減少したためである。
- (9) ぶり類
漁獲量は10万7,671 tで、前年に比べて1万4,970 t (12.2%) 減少した。
これは、茨城県、長崎県等で減少したためである。
- (10) うるめいわし
漁獲量は9万8,218 tで、前年に比べて424 t (0.4%) 増加した。
これは、三重県等で減少したものの、長崎県等で増加したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位1位～5位)

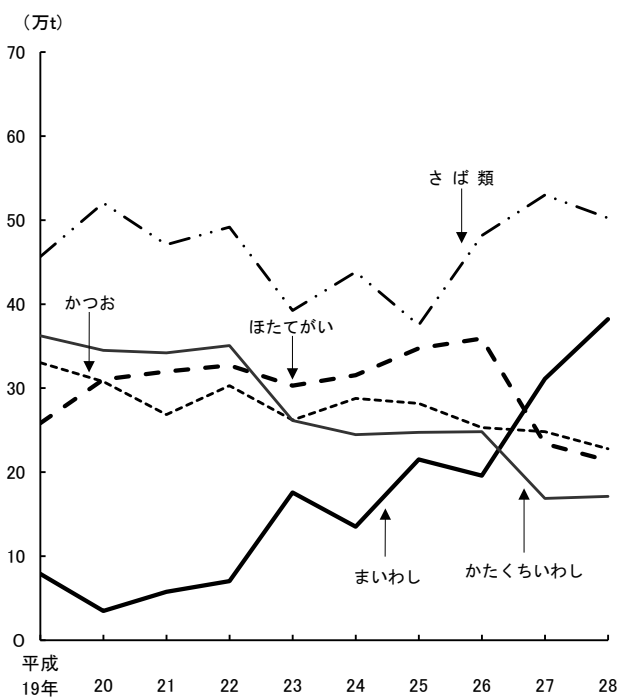
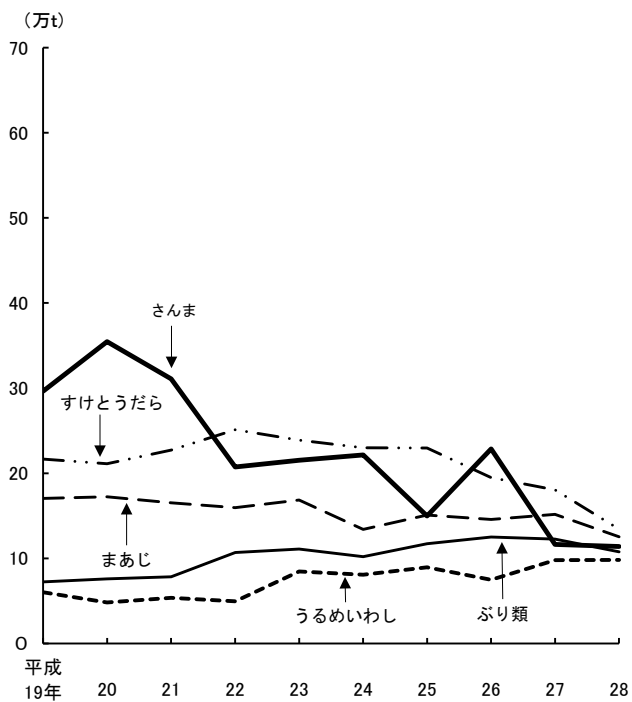


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位6位～10位)



3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は103万2,537 tで、前年に比べ3万6,480 t (3.4%) 減少した。

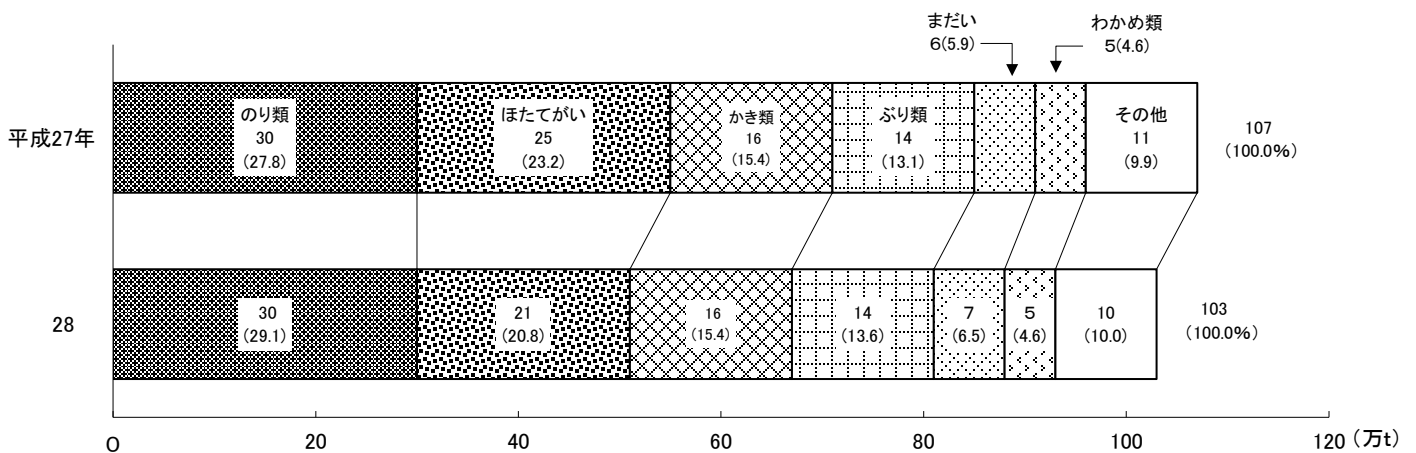
これは、ほたてがい、こんぶ類等が減少したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は3万4,586 t、宮城県の収穫量は8万4,546 tであり、岩手県は前年に比べて8,168 t (19.1%) 減少し、宮城県は前年に比べて7,794 t (10.2%) 増加した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほや類、まだい、のり類 (生重量) 等であり、減少した主な魚種は、ほたてがい、こんぶ類、かき類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が29.1%、ほたてがいが20.8%、かき類が15.4%、ぶり類が13.6%、まだいが6.5%、わかめ類が4.6%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は24万7,563 tで、前年に比べ1,474 t (0.6%) 増加した。

ア ぶり類

収穫量は14万868 tで、前年に比べ576 t (0.4%) 増加した。

これは、鹿児島県で出荷対象となる稚魚の導入が多かったためである。

イ まだい

収穫量は6万6,965 tで、前年に比べ3,360 t (5.3%) 増加した。

これは、愛媛県で施設規模を拡大したこと等により増加したためである。

ウ ぎんざけ

収穫量は1万3,208 tで、前年に比べ729 t (5.2%) 減少した。

これは、宮城県で減少したためである。

(2) 貝類

収穫量は37万3,956 tで、前年に比べ3万9,072 t (9.5%) 減少した。

ア ほたてがい

収穫量は21万4,571 tで、前年に比べ3万3,638 t (13.6%) 減少した。

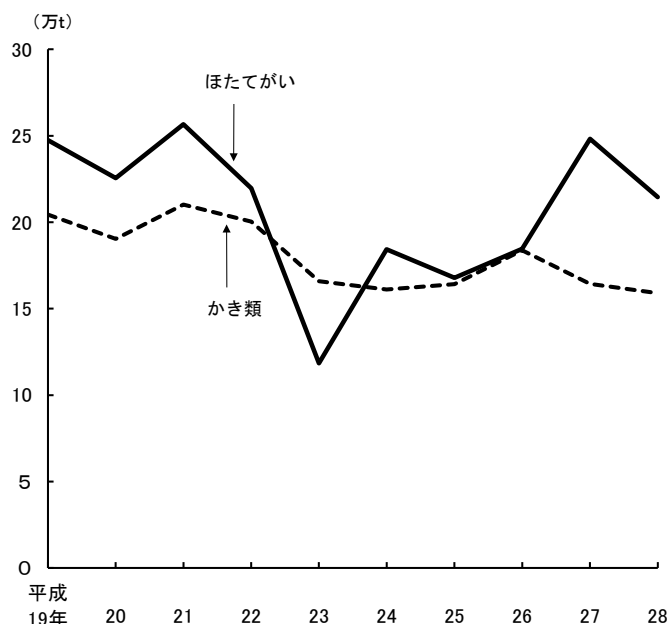
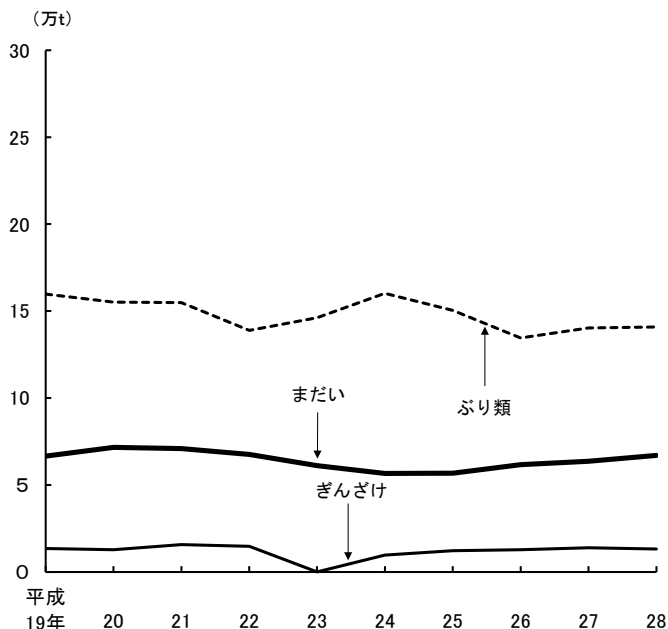
これは、北海道で台風の影響により養殖施設に被害が発生した等から減少したためである。

イ かき類

収穫量は15万8,925 tで、前年に比べ5,455 t (3.3%) 減少した。
これは、広島県で種苗不足の影響等により減少したためである。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (魚類)

図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (貝類)



(3) 海藻類

収穫量は39万1,210 tで、前年に比べ8,971 t (2.2%) 減少した。

ア のり類 (生重量)

収穫量は30万683 tで、前年に比べ3,313 t (1.1%) 増加した。

これは、佐賀県及び熊本県で生育がよかったこと等により増加したためである。

イ わかめ類

収穫量は4万7,672 tで、前年に比べ1,279 t (2.6%) 減少した。

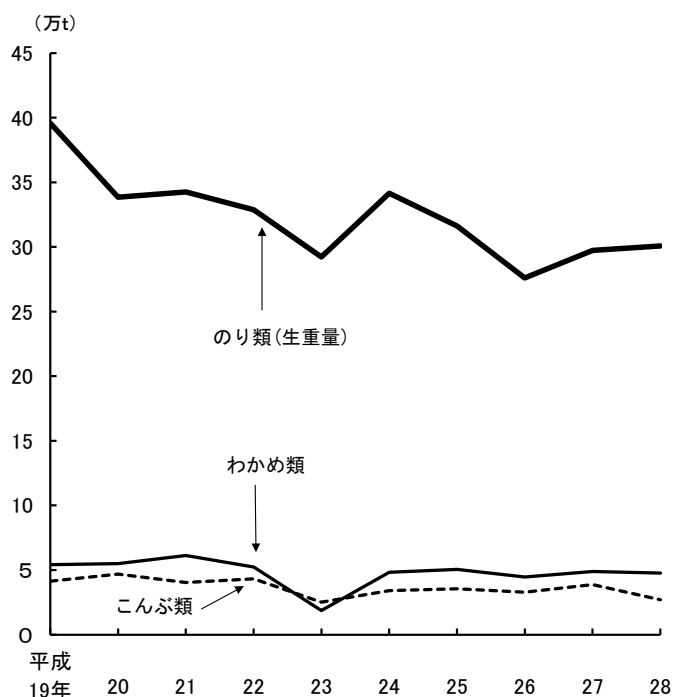
これは、岩手県で1～3月の低気圧の影響により養殖施設に被害が発生したこと等から減少したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は2万7,068 tで、前年に比べ1万1,603 t (30.0%) 減少した。

これは、岩手県で1～3月の低気圧の影響により養殖施設に被害が発生したこと等から減少したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要112河川及び24湖沼）の漁獲量は2万7,937 tで、前年に比べ4,980 t（15.1%）減少した。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は1万2,102 tで、前年に比べ4,376 t（26.6%）減少した。

また、湖沼における漁獲量は1万5,835 tで、前年に比べ605 t（3.7%）減少した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア しじみ

漁獲量は9,580 tで、前年に比べ239 t（2.4%）減少した。

イ さけ類

漁獲量は7,471 tで、前年に比べ4,859 t（39.4%）減少した。

これは、北海道でさけ類の遡上の減少等により減少したためである。

ウ あゆ

漁獲量は2,390 tで、前年に比べ17 t（0.7%）減少した。

エ わかさぎ

漁獲量は1,181 tで、前年に比べ236 t（16.7%）減少した。

これは、北海道等で減少したためである。

オ しらうお

漁獲量は585 tで、前年に比べ189 t（24.4%）減少した。

これは、青森県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

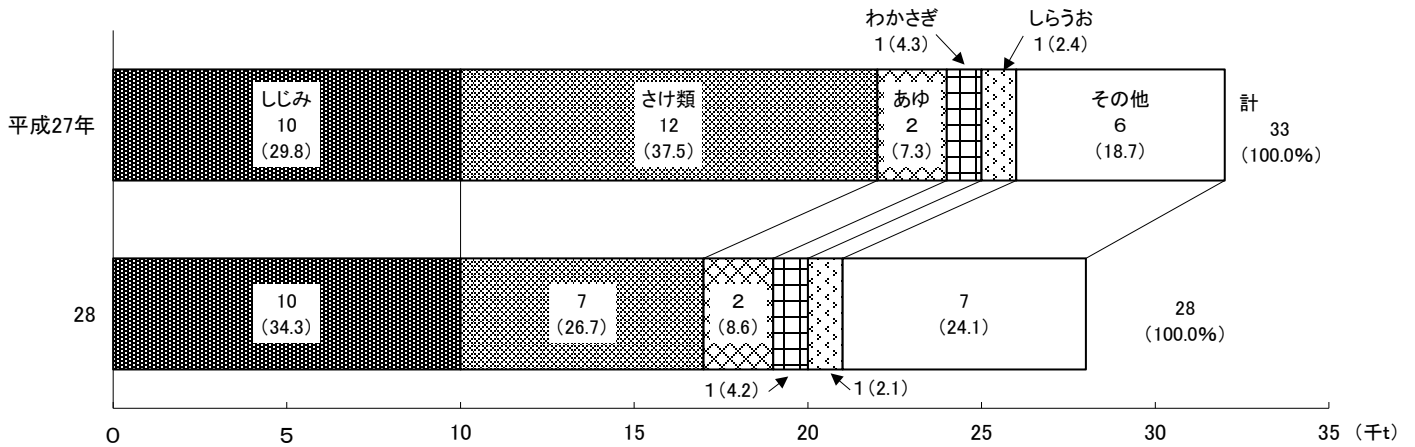
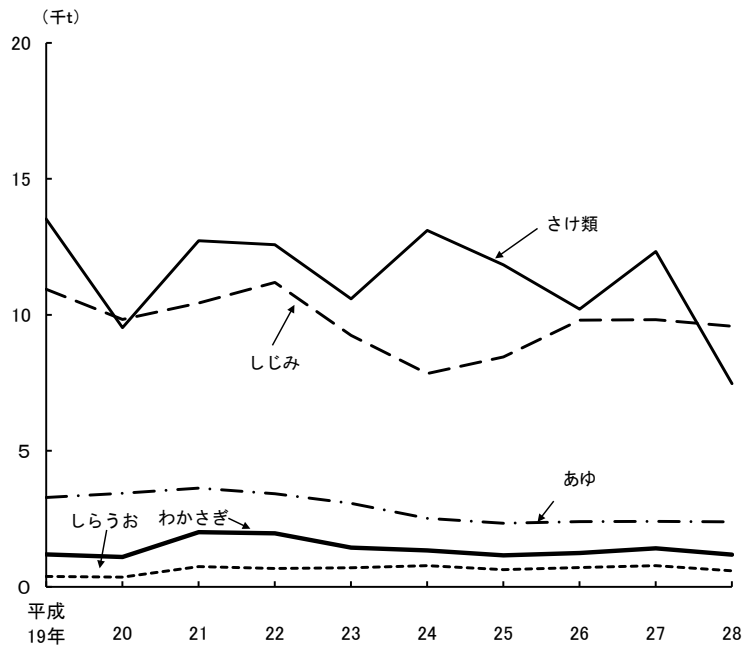


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は3万5,198 tで、前年に比べ1,138 t (3.1%) 減少した。

(1) うなぎ

収穫量は1万8,907 tで、前年に比べ1,212 t (6.0%) 減少した。
これは、愛知県、静岡県等で池入れ量等が減少したためである。

(2) あゆ

収穫量は5,183 tで、前年に比べ99 t (1.9%) 増加した。

(3) にじます

収穫量は4,954 tで、前年に比べ118 t (2.4%) 増加した。

(4) こい

収穫量は3,131 t で、前年に比べ125 t (3.8%) 減少した。

図 11 内水面養殖業主要魚種別収穫量

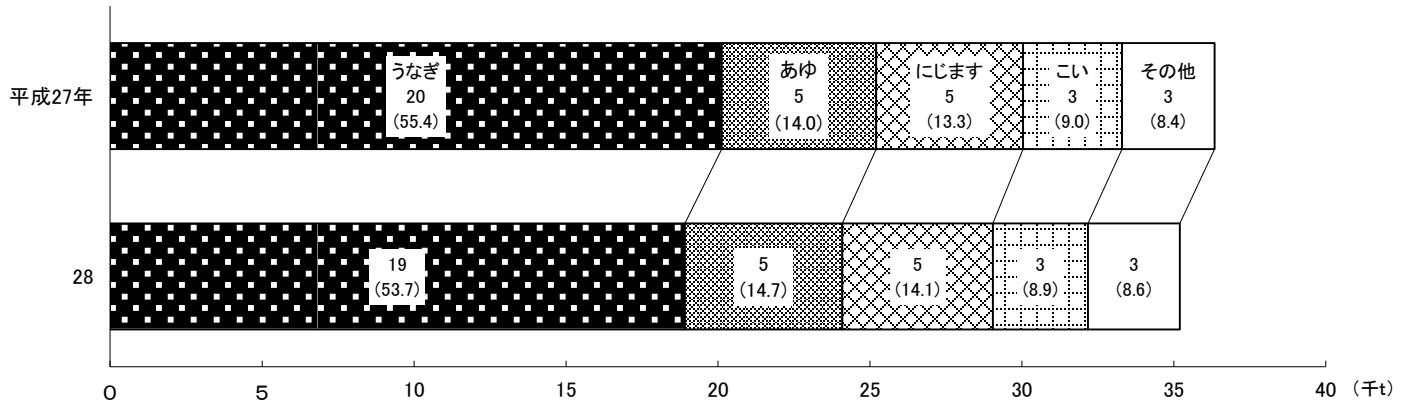


図 12 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移

